自分の考えを持ち、いろいろな活動に自信を持って取り組む生徒をめざして

酒　井　博　文

はじめに

G男は、本校中学部より連絡入学してきた。普段は友だちと仲良く遊んだり、友だちのことを気にかけたりしながら生活している。しかし、自分から「～をする」といった姿は見られず、他の友だちの行動をまねた行動が多く見られる。自分づくりの段階の特徴と照らし合わせると、G男は自制心の形成期と推察される。また、G男は呟くことがよくあるが、なんと呟いたのかと尋ねても「いいですよ」と言って答えないことがよくある。このことは、成功体験が乏しく、行動の範囲が狭いということと「叱られる」などの不安体験が多いことに起因する行動ではないかと推測し、まずG男が言動に自信を持つことをめざして取り組んできた。

1　プロフィール

(1)　生育歴

- 昭和56年２月13日生　15歳10か月
- 出生時体重　2220ｇ
- Ｓ小学校に６年間通学
- 平成５年４月　本校入学（中学部１年）
- 平成８年４月　本校高等部に連絡入学

(2)　諸検査による実態

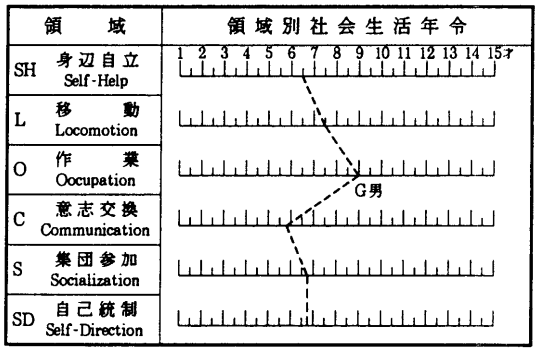
- 知能検査

　　ＷＩＳＣ－Ｒ　ＩＱ40以下

　　田中ビネー式　４歳９か月

- Ｓ－Ｍ社会生活能力検査　６歳８か月

図－４　Ｓ－Ｍ社会生活能力検査（平成８年５月）



(3)　行動の特性

- 楽しかった経験をよく覚えており、何度も繰り返し取り組みたがる。
- 友だちと共に活動することを楽しみにしている。
- 人前で発表したり、質問されたことに答えたりすると緊張した状態になり、口がパクパク動き、なかなか声にならない。常に不安感を持っているように見受けられる。
- 指示が正しく理解できなくて、ときどき勝手な行動が見られる。
- 特定の友だちにちょっかいをかける。
- 友だちを思いやる気持ちは持っているのだが、時として乱暴な言動で友だちの行動を阻止しようとする。

2　取り組みの構想

(1)　指導仮説

〈めざす「生活を楽しむ」像〉
自分の考えを持ち、いろいろな活動に自信を持って取り組む生徒

〈つけたい力〉
認識する力、自己決定する力、協調性、見通す力、自信を持って取り組む態度

以上の願いを持って、本生徒が自分のしたいこと、思っていることを表し、いろいろな活動に自信を持って取り組む姿をめざして次のような仮説を設定した。

多くのことを体験し、行動の範囲を広げていくことを大切にしながら、日常生活のなかで見通しやめあてを持って取り組ませる。そのなかで、成功したときには賞賛したり、励ましたりして成功体験を増やしていく。そして、自分の考えに少しでも自信を持って行動することを繰り返していく。そのことが大きな自信を持たせることにつながり、また、行動の範囲を広げていくことにもつながると考える。

(2) 指導の方針

○分からない場合は人に聞いてから行動に移すということを意識できるようにする。

○できるだけ多くのことを体験できるようにし、成功体験を増やしていく。

○係、当番活動では見通しを持たせ、決められた仕事は最後までやり遂げる態度を養う。

(3) 具体的な手だて

○落ち着いた態度で行動したり、人の話を聞いたりできるようにする。

○自主的に行動できた時、頼まれたことをやり遂げた時には、賞賛や励ましを与える。

○活動をやり終えた後の感想を聞き、次の活動の選択に生かしていく。

3 指導の実際

(1) 生活一般（調理実習を通して）

1学期は主にご飯、みそ汁、簡単なおかず作りをベースに、2学期はさつまいもを材料に使ってのお菓子作りに取り組んできた。作り方や準備する物については最初に説明をし、それから一人ひとりの生徒に活動させるようにしてきた。G男には、分からないときに勝手な行動をしないで、自分から周りの人に尋ねて欲しいという願いを持ち、できるだけ自分から尋ねてくるまで待つ姿勢をとり、活動に取り組むようにしてきた。

いもの皮をむいているG男

	G男の様子	支援（具体的な手だて）	G男の変容
ご飯・みそ汁・簡単なおかず	・作り方が分からなくても周りの人に尋ねることができない。 ・友だちの様子を見て友だちのしていることをまねる。 ・自分が何を作るのかを決めかねて友だちが選ぶのを待っている。 ・いつ手を挙げて発表しようかと迷っている。 ・自分が分担されたおかず（ハンバーグ）はどのようにして作ったらよいのか分からないで迷っている。	・作り方の手順を示し、分からなければ聞いてからするように声かけをする。 ・困っていても自分から尋ねて来るまで声をかけないで待つ。 ・もう一度作る手順を提示又は説明する。 ・「～を作ってくれる人」と問いかける。 ・具体的に何が作りたいのかを尋ねる。 ・自分の意思は挙手して表すようにと声かけをする。 ・何が分からなくて困っているのかを声かけして尋ねる。 ・鍋に水を入れて、水が沸騰してから3～5分入れるように声かけをする。	・道具は自分一人でそろえたが、作り方の手順がよく分かっておらず、周りの友だちが作っている様子を気にしていた。 ・友だちが作っている手順を見てその通りに作っていたが、途中から手順が分からなくなり、失敗した。 ・最初から作りなおした。その間、「次はこうですか」の言葉を繰り返していた。 ・いつ手を挙げようかと迷いながら友だちの動きを見ていた。 ・「G男は何が作りたいの」と聞かれて「玉子焼き」と答えた。 ・何人かの友だちの分担が決まってから、手を挙げて「ハンバーグが作りたいです」と答えた。 ・「これの作り方が分かりません」と言った。 ・急いで鍋を準備し、水を入れて火にかけた。

	・ずっと鍋の側についていて、鍋の中のハンバーグを気にしている。	・引き上げる様子が見られないので、「いつまで入れておくのか」と尋ねる。 ・何分に入れたのかを尋ねる。 ・もう引き上げるように声かけをする。	・「分かりません」と答えた。 ・自信がなさそうに「分かりません」と答えた。 ・急いで箸を使って引き上げた。

＊6月～7月にかけて実施した調理実習での主な様子を列挙したものである。

G男に指示や説明をして活動を任せ、尋ねてくるのを待っているだけでは自信を持つことにつながらない。困っている時は声かけや実演をすることが大切である。

	G男の様子	支援（具体的な手だて）	G男の変容
蒸しパン作り	・自分はどれを選べばよいのか迷っている。 ・友だちの動きを気にしている。 ・作り方があまり理解できていない表情をしている。 ・「できるかなあ」と呟きながら見ている。 ・次に何をしたらよいのか分からずにうろうろしている。 ・「これぐらいでいいのかなあ」と呟きながら、一つひとつ丁寧に盛り付けている。	・自分が作ってみたいお菓子を3つの中から考え、選ぶように声かけをする。 ・作り方の手順を示し、さつまいもの切り方を説明しながら切ってみせる。 ・大きさや形をそろえて上手に切れていたら誉める。 ・困っていても自分から尋ねて来るまで声をかけないで待つ。 ・パン生地に、切ったいもを盛り付けるように声かけをする。 ・「それぐらいで丁度いいよ」、「上手にできたね」と言って誉める。	・周りの友だちのことは、あまり気にせず自分の考えを発表した。 ・少し不安そうな表情をしていたが、すぐにさつまいもを切り始めた。 ・自分から「これでいいですか」と尋ねた。 ・誉められてからは呟きを止め、黙々とさつまいもを切っていた。 ・少し時間がかかったが、自分から「何をしたらいいですか」と尋ねた。 ・すぐに行動に移ったが、どれだけ盛り付ければよいかが分かっていないようだった。 ・少し顔の表情が和らぎ、得意げになっていもをたくさん盛り付けていた。

＊11月に実施した調理実習での主な様子を列挙したものである。

調理実習で同じ様な活動を繰り返し行っていくことで、少しずつその活動に対する見通しが持てるようになってきた。そして、自分がしたことに対して賞賛や励ましの言葉をかけてもらうと、安心して活動に一生懸命取り組んでいる。しかし、まだ助言や声かけが正しく聞き取れず、理解できないということがあり、自分の考えや思いを素直に表現することができず、自信がなさそうにしていることがある。

(2) 委員会活動（保健安全委員会の活動を通して）

G男は保健安全委員会に所属し、その中で当番決めをした際に、体育館器具室の整理整頓係（週2回）になった。最初は当番のことなどあまり気にしないで、休憩時間をふらふらと過ごしていた。当番の日に「G男君、体育館の器具室の整理整頓は終わった？」と尋ねると、あわてて「まだです」と答えることが多かった。そこで一緒に体育館の器具室へ行って整理整頓したことが何度かあった。その後は、休憩が終わってクラスに帰ってきた時に、「きちんとできた？」と尋ねると、「しました」と答えるようになった。しかし、ある時、休憩が終わってクラスに帰ってきたときに、G男が「先生、器具室の整理してきました」と報告した。いつもは尋ねられてから報告をしていたのにどうしたのだろうと思いながらも「今日は先生に言われなくても自分からできたね」「すごいね」と誉めると、少し嬉しそうな表情をした。そして、G男は、「3年生のM子さんに誘われてしました」と答えた。そこで「今度からは他の人に言われなくても自分からしないとだめだよ」

委員会の仕事を終えて報告するG男

と声かけをした。すると、次の当番の日に「自分一人でした」と報告にきた。「よし、G男君だけでしたのか、よく頑張ったね」と賞賛した。その日からG男は言われなくても当番の日の休憩時間になると体育館に行き、自分の仕事が終わると報告に来るようになった。

(3) 職業（受注コースの活動、現場実習を通して）

職業科の学習では、指示を正しく聞き取り、丁寧さや正確さを意識して作業に取り組み、報告や質問をはきはきとする態度を養うことをねらいとしている。G男は、不良品を出したときや製品が出来たときの報告、製品で手を切るなどけがをしたときのカットバンの請求などがなかなかできなかった。しかし、安心して話せる雰囲気や事前に指導していくことで、報告や請求がはっきりとできるようになってきた。また、いろいろな作業方法を教えていき、補助具の使用の可否を自分で考え、選択できる場面を設定してきた。その結果、いろいろな作業方法で作業できるようになり、補助具を使用すると早くできるということが分かってきた。

現場実習では、職業科のねらいに加え、お世話になる会社の勤務時間に沿って働くこと、自力で通勤することなどをねらいとしている。G男は、2週間、電気部品を取り扱う会社で働いた。そこでの仕事内容は基盤の確認、ブラッシング、箱詰めであった。最初の頃は、その会社（働く場）の環境に慣れていないことや初めての作業ということもあり、絶えず緊張した状態で仕事をしていた。部品の確認する場所を指差ししながら確認し、2枚を1組にして箱詰めしていた。実習の中ごろになると、確認する作業に加えてブラッシングの作業が加わった。あわてることなく1枚1枚を丁寧にしていたが、基盤がたまることがあった。実習の終わりごろになると作業にも慣れ、表情に少し余裕がでてきたようにも感じた。人見知りをするG男が初めての現場実習で、見知らぬ人の中で欠勤せずにやり抜いたことは、G男の成長だと思う。また、2週間ほとんど同じ作業だったということもあり、作業の見通しが持てるようになったことも原因の一つであると考えられる。いずれにしてもG男には収穫の多い実習であった。

4 反省と今後の課題

初めは何をするにしても自信がなく、緊張して落ち着きがなくなったり、「～してもいいですか？」と繰り返し尋ねたりすることが多かったG男が、同じ活動に繰り返し取り組む中でその活動に見通しができ、賞賛や励ましを受けたことで、少しずつ自分に自信が持て始めるようになってきた。そしてそのことが、次の活動に向けての意欲につながり、今まで自分が経験した活動と似たような活動では、少しずつ見通しを持って取り組めるようになってきた。しかし、まだまだいろいろな場面でG男の消極的な態度は見られ、生活そのものを楽しむところまでには至っていない。

今後、生活を楽しみ生き生きと活動に参加していくためには、いろいろな場面での成功体験を増やしていき、それを繰り返していくことで、G男が自分の考えに対する自信を持てるように支援していかなければならない。そして、もっともっと行動範囲を広げていかなければならない。自分の思いを素直に表し、いろいろな活動の中で自信を持って取り組むG男の姿をさらに求めていきたい。